

お知らせ

第7回バイオセーフティシンポジウムの開催について

主催：日本バイオセーフティ学会
バイオセーフティシンポジウムテーマ
《新型コロナウイルス感染症とバイオセーフティ》

開催主旨

皆様、日ごろは本会の活動にご理解ご支援頂き感謝申し上げます。

さて、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の感染者が大幅に増えてきていますが、高齢者へのワクチン接種が進み、以前とは異なった様相を呈してきています。医療関係者には大変なご苦勞をおかけしている状況に変わり有りません。学会ではニュースレターで、2回にわたり「新型コロナウイルス感染症とバイオセーフティ」についての特集を行いました。シンポジウムでもこの問題を取り上げ、バイオセーフティの観点から一考していただける機会を設けることとしました。

新型コロナウイルスに関する研究についてウイルス学、疫学等の多くの知見が得られ、また、ワクチンの開発と接種の実施、COVID-19についての治療薬として「カシリビマブ」と「イムデビマブ」が開発されてきています。

本シンポジウムでは、基調講演としてBSL3の新型コロナウイルスについての性状や、ウイルスの変異、検査方法などの最新の情報を国立感染症研究所で新型コロナウイルスの研究を担当しているウイルス第3部長の竹田誠先生にご紹介いただきます。また、医療現場におけるバイオセーフティ上注目すべき点や感染制御体制などの運用面と、感染症病室設計上の注意点およびBSL3室等に必要の室圧制御技術などのハード面からの人および環境へのリスク低減などの観点から専門家の立場としてご紹介いただきます。

今回のシンポジウムはリモート方式での開催となりますが、会場にての参加も可能です。

開催内容

- 1.開催日時：2021年9月16日(木)
- 2.開催場所：(一社)予防衛生協会(つくば)

3.プログラム

- 13:00～13:10 開会挨拶 北林厚生理事長
- 13:10～14:00 基調講演 新型コロナウイルス SARS-CoV-2 の特性、変異ウイルスの出現
竹田誠 国立感染症研究所 ウイルス第3部
休憩 (14:00～14:10)
- 14:10～15:00 新型コロナウイルスにおける医療対応について
國島広之 聖マリアンナ医科大学
- 15:05～15:55 医療施設におけるバイオセーフティ ― 感染症病室の設計概要紹介 ―
北林厚生 (一社) 予防衛生協会 イカリ消毒株式会社
休憩 (15:55～16:05)
- 16:05～16:45 BSL3 室等に必要室圧制御技術と扉開閉時における交差汚染防止対策事例の紹介
三宅範幸 ダイダン株式会社
- 16:45～17:00 まとめ・閉会挨拶 北林厚生

*シンポジウムの開催前にご質問票を配信いたします。

シンポジウムでの質疑応答を行う予定ですが、時間や通信状況等の都合で対応できない場合などがあるかと思われます。当日質問された場合でも、事前に送付いたします質問票を使用し、講演終了後に質問事項等を記載の上、第7回シンポジウム事務局 symp09-16@primate.or.jp まで送信願います。

質問事項に関しましては、回答を会誌「ニュースレター」に掲載するなどの対応を考えております。ご質問の内容によりお答えいたしかねる場合も有りますのでご了承ください。

4.講演概要

4-1. 竹田誠先生

新型コロナウイルス (SARS-CoV-2) による感染症 (COVID-19) が発生してすでに1年と半年以上が過ぎた。COVID-19 の流行は、瞬く間に世界中に拡がり、発生したパンデミックは、いまだに収まる気配はない。SARS-CoV-2 を用いた実験 (生ウイルスを用いた実験) はBSL3で行なう必要があり、経気道感染する特性からも取扱には特に注意が必要である。研究開発がこれまでにない規模と速度で行われ、ウイルスの特性やCOVID-19の病態が次々と解明され、有効なワクチンがわずか約1年で利用可能になった。ワクチンは、流行抑止や重症化の予防に一定の効果を見せている。ただし、変異ウイルスの出現によって、流行の波は再び増加へ転じるなど、状況は刻一

刻と変化している。依然として、SARS-CoV-2、COVID-19、そしてワクチンなどに関する知識の集積とアップデートが常に必要である。本講演では、ウイルスの特性を中心に、今、何が起きているのかを皆さんと考えたい。

プロフィール：国立感染症研究所 ウイルス第3部

呼吸器ウイルス（インフルエンザ・新型コロナ）、麻疹、風疹、ムンプスの研究
ならびにそれらのワクチンの品質管理（承認前検査・国家検定など）

専門分野：ウイルス学（特に呼吸器感染症ウイルス）

4-2. 國島広之先生

2019年に発生した新型コロナウイルス感染症は、主に飛沫感染を伝播経路として、間接的な接触感染や換気の不良な場所におけるエアロゾル感染により感染する。変異株が増加し、ワクチンが普及するなか、若年者や青壮年を中心として軽症例が多いものの重症化や後遺症がみられる疾患として、すべての医療施設の外来ならびに入院診療において対応が迫られている。したがって、地域の医療機関何れもが可能なユニバーサルな感染対策として、適切な検査、防護具の着用、空調対策などを行っていく必要があることから、常に社会全体で最新の情報を共有することが重要な感染対策となる。

プロフィール：聖マリアンナ医科大学

感染症学講座

専門分野：感染症学、感染制御学、臨床微生物学

4-3. 北林厚生先生

2020年初頭、COVID-19感染症の拡散により、社会生活を始め経済に多大な影響を及ぼし現在もなお持続している。

感染症の治療は、多様なコンタミネーション要素の中での行為と成る中での対応となる。

感染症病室の運用は、ハード・ソフト両面を互いに承知した上で行われる必要が有る。

本講座では、ハード面に就き概要を紹介する。

感染症対応病室に就き承知頂ければと思う。

なを、詳細に就いては10月25日~29日の5日間、第1回実験室バイオセーフティ専門家講習会の講座として、院内感染・医療施設の設計全般に加えて本講義を行いますので多数の受講を祈念致します。

プロフィール：（一社）予防衛生協会（理事） イカリ消毒株式会社（顧問）

日本バイオセーフティ学会理事長

専門分野：産業分野における：空調（冷凍・冷蔵含む）・換気システム・給排水衛生設備

4-4. 三宅範幸先生

BSL3施設などでは部屋の清浄度維持および汚染物質の封じ込めが求められ、その手法の一つに室圧制御が挙げられる。一般的に給排気風量を増減させることで室圧制御をおこなうが、扉の開閉や屋外の突風、局所排気装置の運転/停止など、様々な外乱が生じる中で室圧を安定させるには専

門的なエンジニアリングが必要である。本テーマでは一般的に用いられる室圧制御技術に加え、扉の開閉時の交差汚染（クロスコンタミネーション）防止対策について説明・紹介する。

プロフィール：ダイダシ株式会社

エンジニアリング本部 産業・医療施設エンジニアリング部

専門分野：医療施設、製薬施設、BSL 施設などの特殊用途施設における建築設備の計画・設計・施工支援

5.参加費

会員：5,000 円 非会員：8,000 円

6.参加申込

事前に所定の参加申込書を用い申込願います(学会ウェブ「お知らせ」でご確認ください)。

申込先：(一社) 予防衛生協会内 第7回シンポジウム事務局

振込先

領収書並びに請求書ご必要の場合のご連絡先

*一般社団法人予防衛生協会内 第7回シンポジウム事務局 小野孝浩 矢田則行

Mail symp09-16@primate.or.jp TEL：029-828-6888 FAX：029-828-6891

6-1.郵便局振込先

口座記号・口座番号(右詰め) 00250-6-104867

氏名 小野孝浩(オノ タカヒロ)

6-2.銀行振込先

銀行名 ゆうちよ銀行0二九(ゼロニキュウ)店

当座：0104867

名義人 小野孝浩(オノ タカヒロ)

*注記：銀行振込の場合、領収書の発行は致しません。

領収書の必要な場合は本学会事務局では無く、第7回シンポジウム事務局より発行させていただきます。

なお、当日会場にてご参加受付も行います。

7.その他

日本バイオセーフティ学会「実験室バイオセーフティガイドライン(第2版)」の販売

販売価格：会員：2,500 円/冊 非会員：3,500/冊

当日お渡し出来ない場合には、送付料学会負担にて販売担当より送付させていただきます。

会場案内図(予防衛生協会) <https://www.primate.or.jp/access>